

大学教育における柔道学生の指導のあり方

岡 田 龍 司^{*}
高 島 規 郎^{**}
芦 田 信 之^{**}
東 照 正

(^{*}近畿大学健康スポーツ教育センター、^{**}大阪大学医学部)

A new concept of university education for Judo students

Ryuji Okada, Norio Takashima, Nobuyuki Ashida and Terumasa Higashi

1. はじめに

現代社会の特徴のひとつは、その変化の速さにある。グローバル化と情報化は、急速にしかも地球規模で進んでいる。わずか10数年前でさえ、どれだけの人が現在の状況を予想していたであろうか。その中でも、日本特有のものとして、社会全体の高齢化と少子化が間近に迫っている。これらは、今まで十分な議論されて来たものの、実体験はほとんどの人にとってこれからである¹⁾。

社会のすべての分野がそうであるように、大学もまた、前後左右から押し寄せるこれらの大波を巧みな舵取りで乗り切り、21世紀という大海原を目標に向かって航海することを求められている。その中で、柔道学生に対する大学教育のあり方はどのようであればよいのだろうかを、考察してみたい。

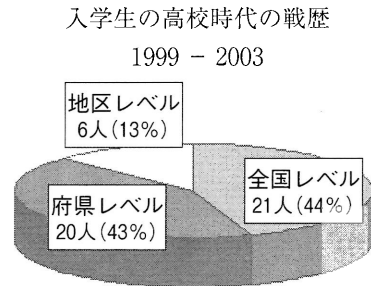
2. 本学における柔道学生の現状

2.1. 入学と卒後進路 (図1、2) (表1)

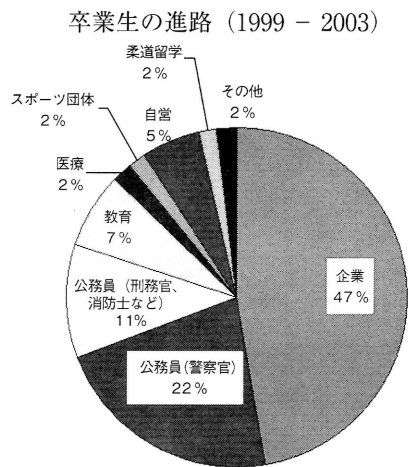
本学では、スポーツ学生特別推薦入学制度により、毎年120~150名の優秀なスポーツ選手が入学している。柔道選手として入学する学生も、すでに高校時代に優秀な戦績を挙げ、大学柔道学生

としてさらなる飛躍を期待されているが、実際に過去の実績において国際大会出場や全日本級の選手を輩出している。また卒業後、さまざまな分野に進んで、社会貢献をしている。

(図1)



(図2)



(表1)

選手の主な戦績

年度	月	戦績 (過去4年間)
03	9	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 2位
03	9	世界柔道柔道選手権大会 1名出場
03	4	全日本柔道選手権大会 1名出場
03	1	嘉納杯国際柔道大会 1名出場
02	11	講道館杯日本柔道体重別選手権大会 5名出場
02	10	全日本学生柔道体重別選手権大会 3位 (2名)
02	7	平壤国際柔道大会 3位
02	2	デンマーク国際柔道大会 2位
02	1	日本国際柔道大会 1名出場
00	9	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 3位 (2名)
00	6	全日本学生柔道体重別選手権大会 3位
00	5	ロシアジュニア国際柔道大会 5位

2.2. 大学生生活

2.2.1. クラス授業

柔道学生の大学生としての授業履修の内容は表2、3のとおりである²⁾。授業時間帯は09:00～21:20である。

(表2)

授業形態

時限	授業時間	月	火	水	木	金	土
1時限	9:00～10:30	●	●	●	●	●	●◆
2時限	10:40～12:10	●	●	●	●	●	●◆
3時限	13:10～14:40	●	●	●	●	●	●◆
4時限	14:50～16:20	●	●	●	●	●	●◆
5時限	16:30～18:00	●◆	●◆	●◆	●◆	●◆	●◆
6時限	18:10～19:40	●◆	●◆	●◆	●◆	●◆	●◆
7時限	19:50～21:20	●◆	●◆	●◆	●◆	●◆	●◆

●…フレックス履修

◆…イブニング履修

(表3)

経営学科 経営学コース 専門科目体系表									
	第1学年配当科目			第2学年配当科目			第3・4学年配当科目		
	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
授 業 科 目	<専門科目Ⅰ>			<専門科目Ⅰ>			<専門科目Ⅰ>		
	経営学	4	通年	企業形態論	4	通年	経営学史	4	通年
	経営史	4	通年	経営管理論	4	通年	経営理念論	4	通年
	経営心理学	4	通年	国際経営論	4	通年	経営組織論	4	通年
	経営数学	4	通年	経営社会学	4	通年	労使関係論	4	通年
	簿記論	4	通年	経営統計論	4	通年	管理会計論	4	通年
	会計学	4	通年	財務諸表論	4	通年	経営戦略論	4	通年
	コンピュータ概論	4	通年	原価計算論	4	通年			
	コンピュータ実習概論Ⅰ	2	半期	プログラミング論	4	通年	<専門科目Ⅱ>		
	コンピュータ実習概論Ⅱ	2	半期	情報管理論	4	通年	研究開発管理論	4	通年
	<専門科目Ⅱ>			<専門科目Ⅱ>			マーケティング・マネジメント論	4	通年
	商学	4	通年	マーケティング論	4	通年	商業経営論	4	通年
	ミクロ経済学	4	通年	財務管理論	4	通年	I業経営論	4	通年
	統計学	4	通年	生産管理論	4	通年	中小企業経営論	4	通年
	TOEIC・TOEFL認定	2	通年	労務管理論	4	通年	観光事業経営論	4	通年
	特殊講義Ⅰ	4	通年	経済政策論	4	通年	公企業経営論	4	通年
	特殊講義A	2	半期	貿易論	4	通年	貿易経営論	4	通年
				マクロ経済学	4	通年	税務会計論	4	通年
				ベンチャービジネスⅠ	4	通年	国際会計論	4	通年
				民法	4	通年	会計システム論	4	通年
				商法	4	通年	会計学説史	4	通年
				ビジネス・イングリッシュ	4	通年	会計史	4	通年
				コンピュータ特修実習	4	通年	経営監査論	4	通年
				外国文献研究A	4	通年	会計監査論	4	通年
				特殊講義Ⅱ	4	通年	経営診断論	4	通年
				特殊講義B	2	半期	経営分析論	4	通年
							経営科学	4	通年
							プログラミング特論	4	通年
							情報システム論	4	通年
							システム設計論	4	通年
							証券投資論	4	通年
							保険論	4	通年
							財政学	4	通年
							産業組織論	4	通年
							多国籍企業論	4	通年
							コミュニケーション論	4	通年
							ベンチャー企業論実習	4	通年
							ベンチャービジネスⅡ	4	通年
							マネジメント・ゲーム	4	通年
							会社法	4	通年
						税法	4	通年	
						外国文献研究B	4	通年	
						演習	8	2ヶ年	
						特殊講義Ⅲ	4	通年	
						特殊講義Ⅳ	4	通年	
						特殊講義C	2	半期	
						特殊講義D	2	半期	

2.2.2. クラブ活動

柔道学生の年間スケジュールは表4のとおりで

ある。試合や合宿で遠征するとき以外は、表5のようなスケジュールで1日の練習を行っている。

(表4)

柔道部年間スケジュール

K 大学 2002 年度予定表

月	大会名 ・ 合宿予定	期 日	場 所
3	関西学生柔道 春季合同強化合宿	6～8	天理大学武道館
	2警察・3大学来校：強化練習	12～16	近大付属高校体育館
4	全日本柔道選抜体重別選手権大会	7	福岡市民体育館
	全日本柔道選手権大会	29	日本武道館
5	ジュニア体重別選手権大会：大阪予選	11	講道館大阪 10:00～
	関西学生柔道体重別選手権大会	19	神戸グリーンアリーナ
6	全日本学生柔道体重別選手権大会	22・23	日本武道館
	大阪柔道体重別選手権大会：国体予選	30	講道館大阪
7	関西学生柔道体重別団体優勝大会	7	京都市武道センター
	ジュニア体重別選手権大会：近畿予選	14	吹田市立武道館
8	夏期強化遠征	11～17	東京
9	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	8	講道館
	関西学生柔道優勝大会	16	尼崎記念公園体育館
10	全日本学生柔道優勝大会	5・6	日本武道館
	大阪学生柔道優勝大会	20	講道館大阪
11	国民体育大会：柔道競技	27～29	宿毛市総合体育館
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会	2・3	尼崎記念公園体育館
12	講道館杯日本柔道体重別選手権大会	23・24	警視庁武道館
	全日本柔道団体選手権大会	1	講道館
2003			
1	嘉納杯国際柔道大会	11・12	日本武道館
2	全日本柔道選手権大会：大阪予選	9	修道館

(表5)

1日のスケジュール

時間	1日スケジュール
6:30	起床
7:00～8:00	トレーニング
8:30～	朝食
11:45～14:15	稽古(道場)
15:30～	食事
16:20～21:20	授業
11:00	門限・就寝

2.2.3. 生活管理

日常生活管理については、完全な全寮制が敷かれている。食事も、朝食は当番制で自炊し、練習後の食事は専門の調理人によって用意されるため、基本的な健康管理体制は整っている。

2.2.4. 今後の課題

本学では上述のごとく、スポーツ学生特別推薦入学制度により、毎年120～150名の優秀なスポーツ選手が入学してくる。柔道部も過去の実績においては、国際大会出場や全日本級の選手を輩出している。しかし、全部員が競技力を向上させ

ているわけではなく、病気、ケガ、スランプ等、何らかの理由により、トップアスリートとして活躍できなかった選手もいる。

ところで、本学のスポーツ学生教育システムの現状を振り返ると、スポーツと学業の両立の面で様々な問題点を抱えている。

たとえば制度的な観点から見ても、スポーツを生かした資格の取得は行われていない。体育学部がないために、体育の教員免許の資格も他大学への編入といった形を取らざるを得ない。柔道選手の卒業後の進路と将来性を考えても、柔道という武道系を生かして警察関係への就職が多かったが、最近では、意欲を持って警察官を志望するにもかかわらず、合格率があまり高くないのが現状である。また、柔道の盛んな実業団も年々休部に追い込まれ、社会人で柔道を続けていくことも困難である。近年は、先輩や関係者の力添えにより、トップ企業へ就職している一方、教育関係や資格を生かす就職先は非常に少なくなっている。

トップアスリートはさらに競技生活を続けられる現場に留まるが、引退後は、指導者として、また、生涯スポーツ社会やスポーツの振興に関した職場で力を発揮することも重要である。そのためには、リーダーとして社会的貢献を果たし得る資質に磨きをかけるための教育システムを確立する必要がある。もし、スポーツに関係する資格取得を目指す教育システムが確立されれば、総合大学である本学で得た幅広い専門的知識を生かして、競技スポーツの振興に貢献するとともに、地域スポーツ、クラブスポーツ、教育福祉の分野などで、スポーツ指導者として活躍するチャンスが飛躍的に増えると考えられる。

そこで、従来の学問体系にこだわらず、総合的視点から見て、スポーツ学生の教育のあり方を考え、スポーツ学生を対象とする制度の見直しをすることが当面の重要な課題である。今後の取り組みのあり方について、既に試みている内容を含めて、以下に体育、知育、徳育に分けて紹介する。

3. 今後の取り組み

3.1. 体育

3.1.1. 体力測定

身体測定と体力測定を、まず年1回、2月から3月にかけて行い、必要に応じて別の時期に追加測定を実施している。全日本学生柔道大会出場の実績をもつ5大学の柔道選手400名の測定値と個人の測定値³⁻¹⁰⁾を比較し、自分の相対的な能力を理解させる。測定項目は表6に示す通りである¹¹⁾。

3.1.2. 個人別トレーニングメニュー(表7)

選手の身体能力にあわせたトレーニングメニューを作成し、基礎体力の向上を図る。各個人にあわせた毎日のトレーニングメニューを月1回提示し、各個人はトレーニングメニューに従ってトレーニングを行い、後述のトレーニングカルテ、ボディサイズ計測、ランニング記録等の記録をつけることにより、実施状況、受けた指導を理解して反省できるようになっている。

(表7)

ウエイトトレーニングの強化個人プログラム

1RM(1~4回) 90~100%	筋力の強化
1RM(4~8回) 80~90%	筋力の強化と筋量の増加
1RM(8~12回) 70~80%	おもに筋量の増加、また筋力の強化
1RM(12~20回) 70%	筋持久力の効果

(表6)

体力測定記録用紙

(フリガナ)		性別	男・女	年齢	歳
氏名					
階級	kg級	組み手	右・左	経験年数	年
旧階級	kg級	利き手	右・左	利き足	右・左
得意技 (優先順位に記入しなさい)	①	②	③		
所属	大学	段位	段	怪我手術	はい・いいえ
競技開始時はいつですか?○印を	小学校以前・小学校低学年(1.2.3年)・小学校高学年(4.5.6年)・中学校・高校生				
大学に入学後選手として公式戦に出場しましたか?○印を	はい・いいえ				
はいと答えた方は、分類ごとに必ず1つ大会の期日と大会名を記載してください。					
平成	年	A. 全国大会名称:			
平成	年	B. 地区大会名称:			
平成	年	C. その他大会名称:			

測定時健康状況:

1. 長育	身長	①	cm	
2. 幅量育	体重	①	kg	
	体脂肪率	①	%	
3. 静的筋力	背筋力	①	kg	② kg
	肩腕力(引)	①	kg	② kg
	握力	1回目		2回目
		左 kg	右 kg	左 kg 右 kg
	斜懸垂	①	回	② 回
4 敏捷性	反復横跳び(20sec)	①	回	② 回
5. 瞬発力	垂直跳び	①	cm	② cm
6. 無氣的持久性	400m 走	①	sec	
	Push-ups with clap(20sec)	①	回	
7. 柔軟性	伏臥上体反らし	①	cm	② cm
	長座位体前屈	①	cm	② cm
8. 動的平衡性	Bass バランステスト	①	point	

3.1.3. トレーニングカルテ

表8にトレーニングカルテのフォーマットを示す。3ヶ月ごとの記録を行っている。

(表8)

トレーニングカルテ

身長		cm
体重		Kg
体脂肪率		%
握力	右	Kg
	左	Kg
肺活量		cm
視力	右	
	左	
現時点MAX		
ベンチプレス		Kg
スクワット		Kg
デッドリフト		Kg
背筋力		Kg
垂直とび		cm
前屈		cm

3.1.4. ボディサイズ記録

表9にボディサイズの記録のフォーマットを示す。この計測も3ヶ月ごとに行っている。

(表9)

ボディサイズの記録

首回り		cm
胸囲		cm
右上腕		cm
左上腕		cm
ウエスト		cm
右大腿		cm
左大腿		cm
右下腿		cm
左下腿		cm

3.1.5. ランニング記録

ランニング記録は、各個人の階級によりメニューが異なるが、表10に示すようなフォーマットにて、週3回ランニングトレーニング時において時間計測を記録している。

(表10)

ランニングトレーニングメニュー3日間(月、水、金)

	ランニングトレーニング記録(時間計測実施)週3回		
	長距離 (月曜日)	中距離 (水曜日)	短距離 (金曜日)
	(1週1.5km)	(1km)	(200m、100m)
60kg~81kg	5週	4本	10本
90kg~100kg	4週	4本	10本
100kg~120kg	3周半	2本	8本
120kg超	3週	2本	8本

3.1.6. 試合結果のレポート提出

自分自身の結果を客観的に把握するために、毎試合ごとに表11のような試合結果の反省文(今後の課題等)をレポート提出させ、監督コーチのコメントをつけて返信し、学生とのコミュニケーションをはかっている。また、練習試合では必ず表12のような対戦成績表を記録保存している。

(表 12)

学内試合リーグ戦表 平成 15 年 10 月 16 日 (木曜日)12:30~14:30

A 代表選手グループ

氏 名	1	2	3	4	5	6	7	勝 敗	順位
1 A		○	▲	▲	○	○	▲	3-3	3
2 B	▲		▲	▲	▲	○	▲	1-5	7
3 C	○	○		○	○	○	○	6-0	1
4 D	○	○	▲		○	○	○	5-1	2
5 E	▲	○	▲	▲		○	▲	2-4	5
6 F	▲	▲	▲	▲	▲		○	1-5	6
7 G	○	○	▲	▲	○	▲		3-3	4

B ベンチ選手グループ

氏 名	1	2	3	4	5	6	7	勝 敗	順位
1 H		○	▲	▲	○	▲	○	3-3	4
2 I	▲		▲	▲	○	▲	▲	1-5	6
3 J	○	○		○	○	○	○	6-0	1
4 K	○	○	▲		○	▲	▲	3-3	5
5 L	▲	▲	▲	▲		○	▲	1-5	7
6 M	○	○	▲	○	▲		○	4-2	2
7 N	▲	○	▲	○	○	▲		3-3	3

C 補欠選手グループ

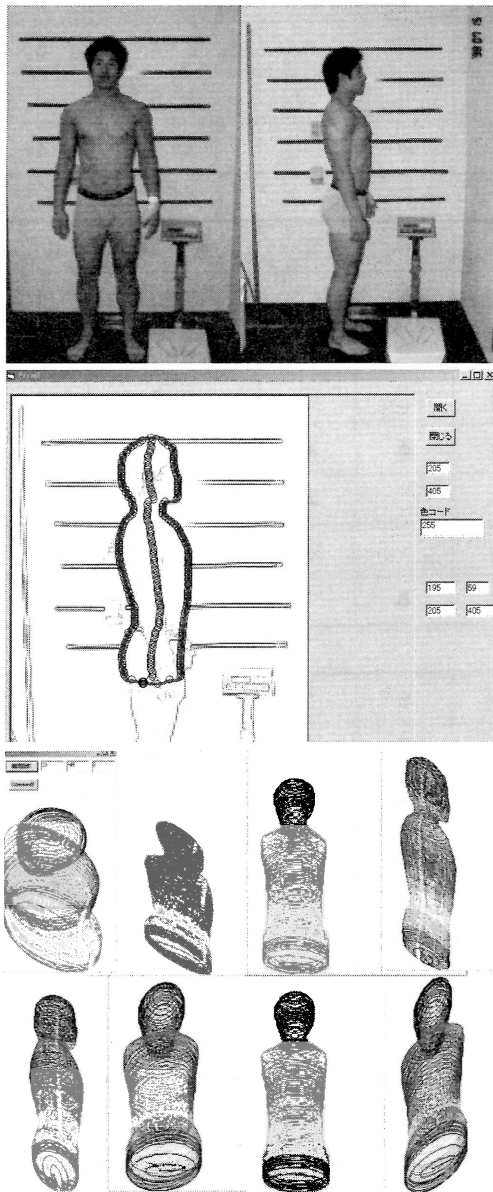
氏 名	1	2	3	4	5	6	7	勝 敗	順位
1 O		○	○	○	○	○	○	6-0	1
2 P	▲		▲	▲	▲	▲	▲	0-6	7
3 Q	▲	○		○	▲	▲	○	3-3	5
4 R	▲	○	▲		○	▲	○	3-3	4
5 S	▲	○	○	▲		○	○	4-2	2
6 T	▲	○	○	○	▲		○	4-2	3
7 U	▲	○	▲	▲	▲	▲		1-5	6

3.1.8. シルエット分析による体格変化の追跡 (図3)

体型の詳細な変化をとらえる目的で、全身の正面、側面から写真撮影を行い、コンピュータ処理によってボディ解析する。年1回実施することにより4年間の体型の変化を調べている。

(図3)

シルエット分析による体格変化



3.2. 知育

3.2.1. 資格取得のための授業要件

今後の取り組みの中で最も重要な点の一つに、スポーツに関する資格の取得を目指すことがある。これは先に述べたように、資格取得そのもののメリットとともに、勉学に対する意欲の養成や知識そのものの習得のきっかけになる。主な資格習得に要する授業要件を表13に示した。

(表13)

資格取得に必要な授業科目

(財) 日本体育学会 公認C・B級スポーツ指導員・スポーツプログラマー

指定科目
スポーツ社会学
スポーツ心理学
スポーツ経営学
スポーツ生理学
スポーツ医学
スポーツ指導論
地域におけるスポーツ行政

(財) 日本体育協会 公認C級コーチ

指定科目
スポーツ社会学
スポーツ心理学
トレーニング科学
スポーツ医学
スポーツと栄養
スポーツ指導論
地域におけるスポーツ行政

3.2.2. 新しいカリキュラムによる教育

競技選手としての知識とスポーツ指導者としての素養を身につけるため、また、上述の資格取得要件をも満たすようなカリキュラム構成が必要である。平成16年度から経営学部スポーツ・マネジメントコースが新しく開設されることになった(表14)。その内容は柔道学生の知育の目標を達成するのに充分なものとして期待される。

(表 14)

経営学部スポーツ・マネジメントコース平成
16年度開講予定科目

スポーツ社会学
スポーツ心理学
スポーツ経営学
トレーニング科学
スポーツ生理学
スポーツ医学
スポーツ栄養学
スポーツ指導論
スポーツ行政論

3. 3. 徳育

柔道学生には、日々のミーティングを中心に、常に柔道家としての精神的な成長を期待すべきである。現在、監督・コーチが中心になって行っている教育の基本精神を以下に紹介する¹²⁾。

講道館は1882年に創設された。創設者は講道館柔道の創始者嘉納治五郎師範である。柔道の母胎は柔術であった。柔術にはいろいろの名称や流派があるものの、全体として無手または武器を持つ相手を攻撃し、または、それから自分を防御する術だったと言える。師範は柔術各流派の優れたところを集め、危険なところを除き、工夫と研究を加えて、全く新しい講道館柔道を創始したのである¹³⁾。

また、嘉納師範は、広く国民的視野から体育としての柔道をとらえ、講道館の組織づくりを推進し、柔道の諸規定を整備していくかたわら、1909年にはアジア地域で初めての国際オリンピック委員となって体育、スポーツの振興に尽くし、柔道の世界的な普及にも心をくだかれた。柔道は、世界中の柔道愛好家、スポーツ振興者たちの支援で、1964年にオリンピックの正式種目となり、今や世界のスポーツとして各国で盛んに行われている。しかしながら、モラルや心身面の教育に武道は重要な役割を果たすと言われ、実際に武道の指導者は武道の利点について語り、指導していると思われる。柔道は国際的スポーツの一つであるだけでなく、日本においては体育、勝負、修身という目的を付与され、人格形成の有効な手段として考えられながら、今日に至っている。

実際のところ、柔道を知的、身体的、更に道徳発達に焦点をおいた事が、柔道のスポーツとしての面を遥かに上回り、世界的に認められたのだと、柔道の世界的進出についての歴史的調査では示唆している。

現在の柔道は国際化、競技化、スポーツ化が進み、競技成績や勝敗が注目されているが、21世紀を迎えた今、嘉納師範が提唱された柔道の原点に立ち返り、人間教育を重視した指導を進めようとする動きが出てきた。講道館、全柔連では、これに呼応して柔道ルネッサンスが企画、実施されている^{14,15)}。

21世紀を迎え、柔道の競技スポーツ化がより進行し、ますます国際的広がりを見せている。2001年のミュンヘン世界柔道選手権大会では、アフリカ大陸のチュニジアが、中近東のイランが、そして2003年の大阪世界柔道選手権でも、南米のアルゼンチンが初の金メダルを獲得した。我国で発祥した柔道は国際的スポーツとして、もはや特定の国々のみが高い競技力を誇るという時代は過去のものとなりつつある。柔道がこのような普及してきた理由は、競技としての魅力だけでなく、創始者嘉納治五郎師範の位置づけられた柔道修行の究極の目的である「己の完成」「世の補益」という教育面が、世界の人々に受け入れられたことに拠るものと言えよう。師範は競技としての柔道を積極的に奨励する一方、人間の道としての理想を掲げ、修行を通してその理想の実現を図れ、と生涯を懸けて説かれた^{10,18)}。

我が近畿大学柔道部においても、嘉納治五郎師範の掲げた道標「精力善用、自他共栄」の武道精神を学生に指導している。

4. おわりに

今なお脈々と息づいている日本柔道の精神に基づいて、21世紀の柔道家や指導者、柔道を経験した社会人を育成するためには、新しい時代に即した系統的な教育の場が必要であろう。それを実現するためのたゆまない努力が必要であると考えている。

引用・参考文献

- 1) (財)健康・体力づくり事業財団普及啓発部編集
「健康日本21(21世紀における国民健康づくり運動について)」太陽美術(2000)
- 2) 平成15年度近畿大学経営学部要項 編集 近畿大学経営学部教務委員会(2003)
- 3) 田中秀幸、飯田穎男、松浦義行、中島 多木、武内政幸、若山英央「大学柔道選手の基礎体力平衡性評価尺度について」武道学研究 第31巻別冊 p.5(1998)
- 4) 上口孝文、武内政幸、飯田穎男、松浦義行「日本と韓国大学柔道選手の体力の構造とその比較」国学院大学体育研究室紀要 第20巻 p.65-72(1988)
- 5) 柳沢 久、浅見高明、川村禎三、中村良三「柔道選手の形態と機能の特徴について」武道学研究(1977)
- 6) 若山英央、柏崎克彦、石井兼輔、越野忠則、武内政幸、中島 多木、飯田穎男、田中秀幸「大学柔道選手の基礎体力の因子構造-国際武道大学柔道部を対象として-」国際武道大学研究紀要 第12巻 p.49-56(1996)
- 7) 若山英央、柏崎克彦、石井兼輔、越野忠則、宮腰浩一、矢崎利加、武内政幸、中島 多木、飯田穎男、松浦義行「大学柔道選手の階級別基礎体力の因子構造-国際武道大学柔道部を対象として-」国際武道大学研究紀要 第13巻 p.4-12(1997)
- 8) 武内政幸、飯田穎男、松浦義行、吉岡 剛、上口孝文、田中秀幸、高木長之助、遠藤純男「400m走の基礎体力の貢献について-大学生柔道選手を対象にして-」大東文化大学研究紀要 第27巻 p.217-230(1989)
- 9) 武内政幸、渋谷恒男、飯田穎男、松浦義行、稲垣 敦、中島 多木、上口孝文、高木長之助、吉岡 剛「柔道選手の基礎体力診断のための組テスト-大学柔道選手を対象として-」大東文化大学研究紀要 第31巻 p.153-169(1993)
- 10) 岡田龍司、武内政幸、若山英央、飯田穎男、中島 多木、田中秀幸、矢崎利加、小森富士登「大学柔道選手の階級別基礎体力評価-旧階級における選手群・部員群の比較-」近畿大学教養部研究紀要 第32巻 p.199-221(2001)
- 11) 飯田穎男、松浦義行、青柳 領、武内政幸、吉岡 剛、小俣幸嗣「大学柔道選手のための基礎体力組テスト」体育学研究 第29巻1号 p.35-42(1984)
- 12) (財)日本体育協会「資格取得に関する資料提供」
- 13) アレキサンダー・ベネット「外国人から見た武道と日本人」毎日新聞夕刊(2003.3.21)
- 14)「柔道大辞典」監修 嘉納行光、醍醐敏郎、川村禎三、竹内善徳、中村良三、佐藤宣践 アテネ書房(2000)
- 15)「近代柔道」ベースボール・マガジン社 発行(2002-2003)
- 16) 松本芳三「嘉納先生伝記編纂会」嘉納治五郎著作集 講道館監修 創立110周年記念 五月書店(1992)
- 17) 村田直樹「嘉納治五郎師範に学ぶ」日本武道館 発行(2001)
- 18) 嘉納治五郎 人間の記録 第2巻「私の生涯と柔道」日本図書センター発行(1997)